

《月報》
平成 22年 8月
(第31 ~ 34週)発行年月日:平成22年(2010年)9月21日
発行:滋賀県衛生科学センター内
滋賀県感染症情報センター
電話 077-537-7438 FAX 077-537-5548

1)全数報告の感染症(一類~五類)

全国の医療機関において、医師が感染症法で定められている一~四類および五類感染症に該当する患者を診断したとき医師は保健所に届出ことになっています。
このことを全数報告といいます。また、届出により全国または滋賀県で発生している感染症法で定められた一~四類および五類感染症を把握することができます。

感染症 類型	疾 病 名	平成 22年		平成 21年 ¹⁾		感染症 類型	疾 病 名	平成 22年		平成 21年 ¹⁾			
		1~7月		8月				1~7月		8月			
		滋賀県 全 国	滋賀県 全 国	滋賀県 全 国	滋賀県 全 国			滋賀県 全 国	滋賀県 全 国	滋賀県 全 国	滋賀県 全 国		
一類	エボラ出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	クリミア・コンゴ出血熱	0	0	0	0	0	0	0	31	0	24		
	痘そう	0	0	0	0	0	0	0	0	0	129		
	南米出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3		
	ベスト	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	マールブルグ病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	ラッサ熱	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2		
	急性灰白髄炎	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0		
二類	結核	138	14,212	17	2,204	256	26,932	0	0	0	0		
	ジフテリア	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	重症急性呼吸器症候群	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	鳥インフルエンザ(H5N1)	0	0	0	0	0	0	0	36	0	11		
三類	コレラ	0	4	0	2	1	16	0	0	0	0		
	細菌性赤痢	2	97	0	24	0	180	0	5	0	3		
	腸管出血性大腸菌感染症	15	1,712	7	905	27	3,886	0	0	0	0		
	腸チフス	0	17	0	4	0	29	0	0	0	0		
	バラチフス	1	14	0	0	0	27	0	2	0	0		
四類	E型肝炎	0	40	0	6	1	56	2	393	3	70		
	ウエストナイル熱	0	0	0	0	0	0	0	5	0	1		
	A型肝炎	3	280	0	16	0	115	0	0	0	0		
	エキノコックス症	0	5	0	1	0	26	3	462	0	76		
	黄熱	0	0	0	0	0	0	0	113	2	16		
	オウム病	1	7	0	2	0	21	0	142	0	17		
	オムスク出血熱	0	0	0	0	0	0	0	10	0	0		
	回帰熱	0	0	0	0	0	0	1	93	1	12		
	キャサヌル森林病	0	0	0	0	0	0	0	74	1	11		
	Q熱	0	0	0	1	0	2	1	839	0	115		
	狂犬病	0	0	0	0	0	0	6	346	0	49		
	コクシジョイデス症	0	0	0	0	0	2	0	47	0	2		
	サル痘	0	0	0	0	0	0	0	5	0	1		
	腎症候性出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
五類	西部ウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	ダニ媒介脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	炭疽	0	0	0	0	0	0	0	54	0	10		
	つつが虫病	0	110	0	1	0	465	0	0	0	0		
	デング熱	0	78	0	48	0	93	1	64	0	5		
	東部ウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	5	60	0	7		
	鳥インフルエンザ	0	0	0	0	0	0	1	326	2	34		
	新型インフルエンザ フルエンザ等感染	0	0	0	0	0	0	-	-	138	12,639		

*1 感染症発生動向調査事業年報暫定値(国立感染症研究所感染症情報センター)

(*):集計期間は平成21年7月24日~平成21年8月24日、-:未集計

滋賀県における全数報告感染症の概要
(8月)

<結核> 17名

性別: 男性 9名、女性 8名
類型: 患者 17名
病型: 肺結核 9名
その他の結核 8名

<腸管出血性大腸菌感染症>

性別: 男性 3名、女性 4名
年齢: 0~9歳 3名、10~19歳 2名
40~49歳 1名、50~59歳 1名
血清型・毒素型:
O157・VT1&VT2 7名

<レジオネラ症>

男性 79歳、80歳、女性 85歳
推定感染経路は水系感染 1名、塵埃
感染 1名およびその他 1名で、推定感
染地域は3名とも日本国内です。

<ウイルス性肝炎>

男性 25歳、37歳
推定感染経路は同性間性的接触 1名
および静注薬物常用 1名で、推定感
染地域は日本国内です。また、病型はB型
1名およびC型 1名です。

<クロイツフェルト・ヤコブ病>

男性 85歳
推定感染経路および推定感染地域は
不明です。

<創症型溶血性レンサ球菌感染症>

男性 50歳
推定感染経路は創傷感染で、推定感
染地域は日本国内です。

<麻しん> 男性 1歳、2名

2名とも、推定感染経路は不明、推定
感染地域は日本国内、ワクチン接種歴
は1回目 有りです。

2) 定点把握の対象となる五類感染症

感染症発生動向調査事業に係る報告のうち、滋賀県が指定した「指定届出機関」を定点医療機関(定点)といい、その定点から報告される感染症を定点把握対象感染症といいます。また、定点当たり患者数とは、一週間を単位として一ヵ所の定点から何人の患者が報告されているかを示したもの(患者報告数 / 定点医療機関数)。例えば、一つの疾患(インフルエンザ等)について、一週間に53ヵ所の定点から総数53人の報告があれば、定点当たり患者数は1.00となります(疾患により定点数は異なります)。

また、疾患によりインフルエンザ定点、小児科定点、眼科定点および基幹定点に分かれています。

8月の概要

<インフルエンザ>

第31週(8/2～8/8)に報告があったのみで、他の週には報告はありませんでした。第31～34週(8/2～8/29)における発生状況は、昨年をのぞく過去の同時期とほぼ同様の発生状況を示していました。

<小児科定点疾患>

先月より増加した疾患は、RSウイルス感染症および百日咳のみで、その他の疾患は先月より減少していました。特に、咽頭結膜熱(プール熱)、手足口病およびヘルパンギーナでは激減していました(他の疾患については、疾病別定点当たり患者数のグラフ参照)。手足口病では、第26週(6/28～7/4)に県内全域に警報が発令されていましたが、第34週(8/23～8/29)に解除されました。ヘルパンギーナでは、第27週(7/5～7/11)に県内全域に警報が発令されていましたが、第33週(8/16～8/22)に解除されました。また、伝染性紅斑(リンゴ病)では草津保健所管内で、第23～32週(6/7～8/15)の間警報発生基準値を超えていましたが、第33週(8/16～8/22)には警報発生基準値未満(定点当たり患者数 1.00)となりました。百日咳では、大津市保健所管内からの報告が多くなっていました。

感染症発生動向調査に基づく流行の警報・注意報システムによる警報・注意報発生状況は下記に示すとあります。

<眼科定点疾患> <基幹定点疾患>

眼科定点疾患である流行性角結膜炎は先月より微減となり、急性出血性結膜炎の報告はありませんでした。基幹定点疾患では、細菌性髄膜炎および無菌性髄膜炎は先月より減少し、今月の報告はありませんでした。マイコプラズマ肺炎は先月と横ばいで、大津市および東近江保健所管内からの報告が多くなっていました。クラミジア肺炎の報告はありませんでした。

感染症発生動向調査に基づく流行の警報・注意報システムによる 警報・注意報発生状況(平成22年第31～34週)

疾患名	31週	32週	33週	34週	警報発生基準値	
	8/2～8/8	8/9～8/15	8/16～8/22	8/23～8/29	警報開始基準値	警報終息基準値
伝染性紅斑(リンゴ病) 保健所・定点当たり患者数(人)	草津・2.00	草津・1.17			2.00	1.00
手足口病 保健所・定点当たり患者数(人)	草津・3.30 甲賀・5.50 東近江・2.40 彦根・3.50 高島・6.00	甲賀・5.50 東近江・2.40 高島・2.50	甲賀・2.50 東近江・2.00 高島・2.00	東近江・2.40	5.00	2.00
ヘルパンギーナ 保健所・定点当たり患者数(人)	草津・5.83 東近江・2.00 長浜・2.75 高島・15.00	長浜・2.75 高島・9.50	高島・9.00	高島・6.00	6.00	2.00

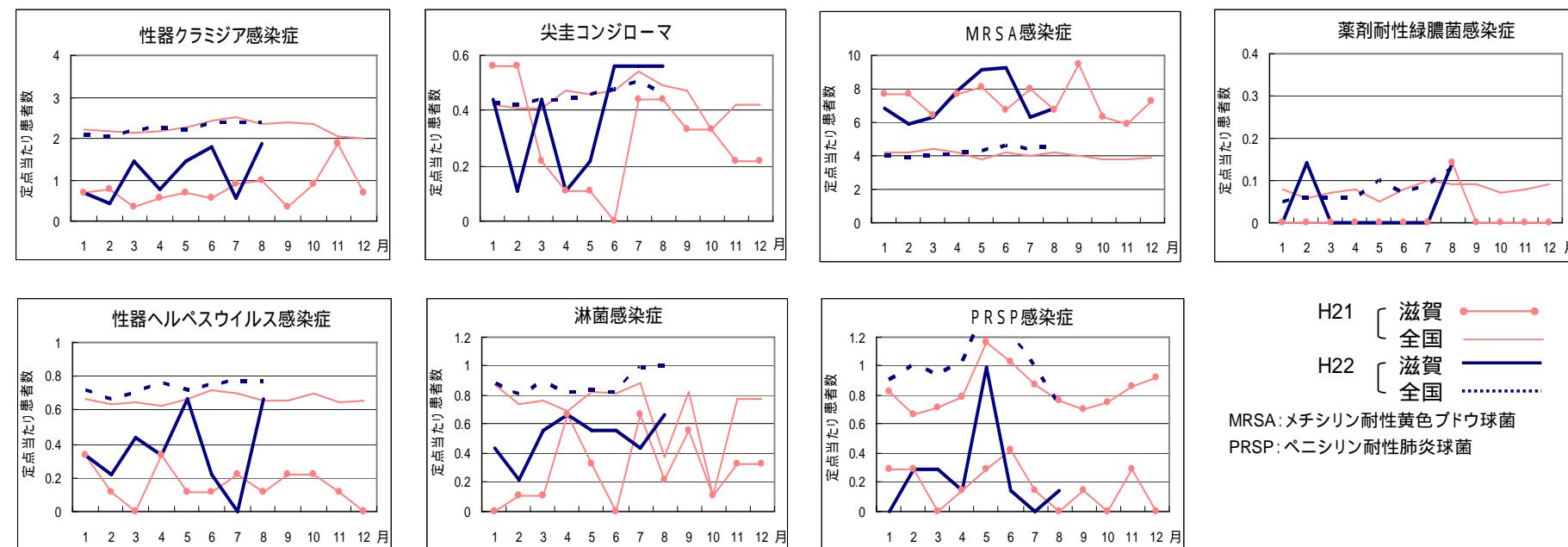
<各定点の対象疾患>

定点	疾患名
インフルエンザ定点	インフルエンザ
小児科定点	RSウイルス感染症、咽頭結膜熱 A群溶レン菌咽頭炎、水痘 感染性胃腸炎、手足口病 伝染性紅斑(リンゴ病)、百日咳 突発性発しん、ヘルパンギーナ 流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)
眼科定点	急性出血性結膜炎 流行性角結膜炎
基幹定点	細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎 マイコプラズマ肺炎 クラミジア肺炎(オウム病を除く)

* 空白部分については、警報発生基準値に該当する保健所管内はありません
: 警報開始基準値または警報終息基準値を超えています。

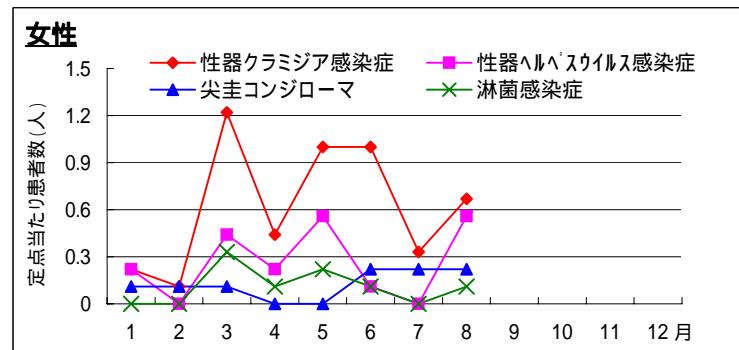
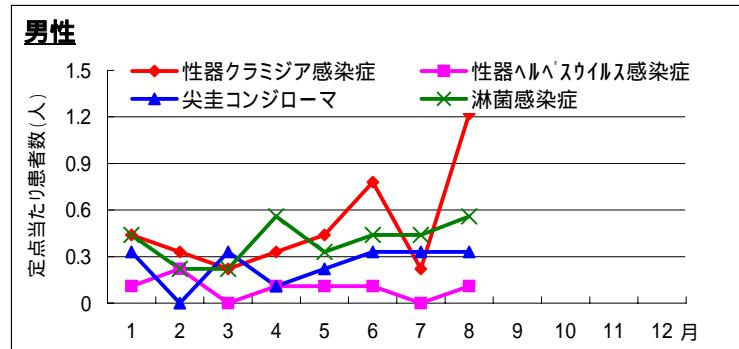
3)性感染症定点および基幹定点における疾病別発生状況(平成22年8月)

疾患名	区分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
性器クラミジア感染症	罹患者数	6	4	13	7	13	16	5	17					81
	定点当たり	0.67	0.44	1.44	0.78	1.44	1.78	0.56	1.89					9.00
性器ヘルペスウイルス感染症	罹患者数	3	2	4	3	6	2	0	6					26
	定点当たり	0.33	0.22	0.44	0.33	0.67	0.22	0	0.67					2.88
尖圭コンジローマ	罹患者数	4	1	4	1	2	5	5	5					27
	定点当たり	0.44	0.11	0.44	0.11	0.22	0.56	0.56	0.56					3.00
淋菌感染症	罹患者数	4	2	5	6	5	5	4	6					37
	定点当たり	0.44	0.22	0.56	0.67	0.56	0.56	0.44	0.67					4.12
メチシリン耐性 黄色ブドウ球菌感染症	罹患者数	48	41	44	55	64	65	44	48					409
	定点当たり	6.86	5.88	6.29	7.86	9.14	9.29	6.29	6.86					58.47
ペニシリン耐性 肺炎球菌感染症	罹患者数	0	2	2	1	7	1	0	1					14
	定点当たり	0	0.29	0.29	0.14	1.00	0.14	0	0.14					2.00
薬剤耐性綠膿菌感染症	罹患者数	0	1	0	0	0	0	0	1					2
	定点当たり	0	0.14	0	0	0	0	0	0.14					0.28

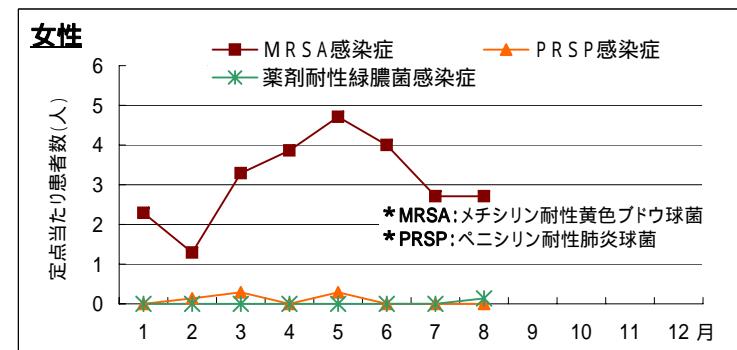
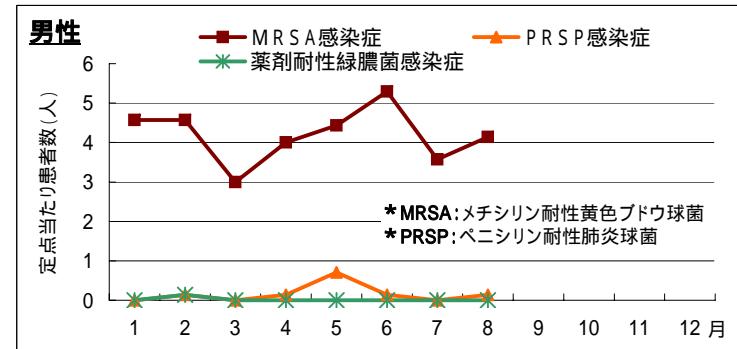


性感染症定点および基幹定点における疾病別発生状況を先月と比較すると、尖圭コンジローマでは先月と横ばいですが、他の疾患では増加しています。特に、性器クラミジア感染症および性器ヘルペスウイルスで大幅に増加しています。

性感染症定点における疾患別発生状況 (H22.8)



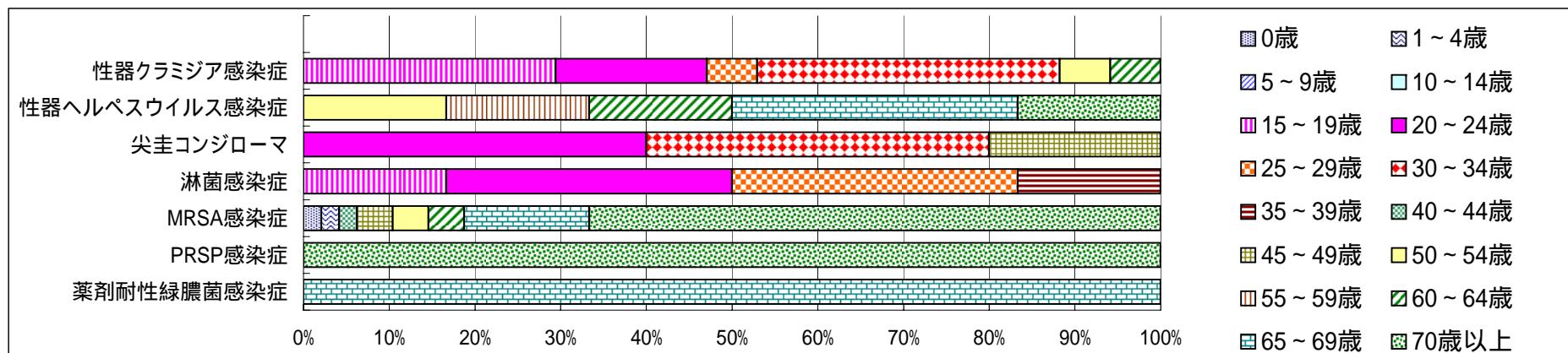
基幹定点における疾患別発生状況 (H22.8)



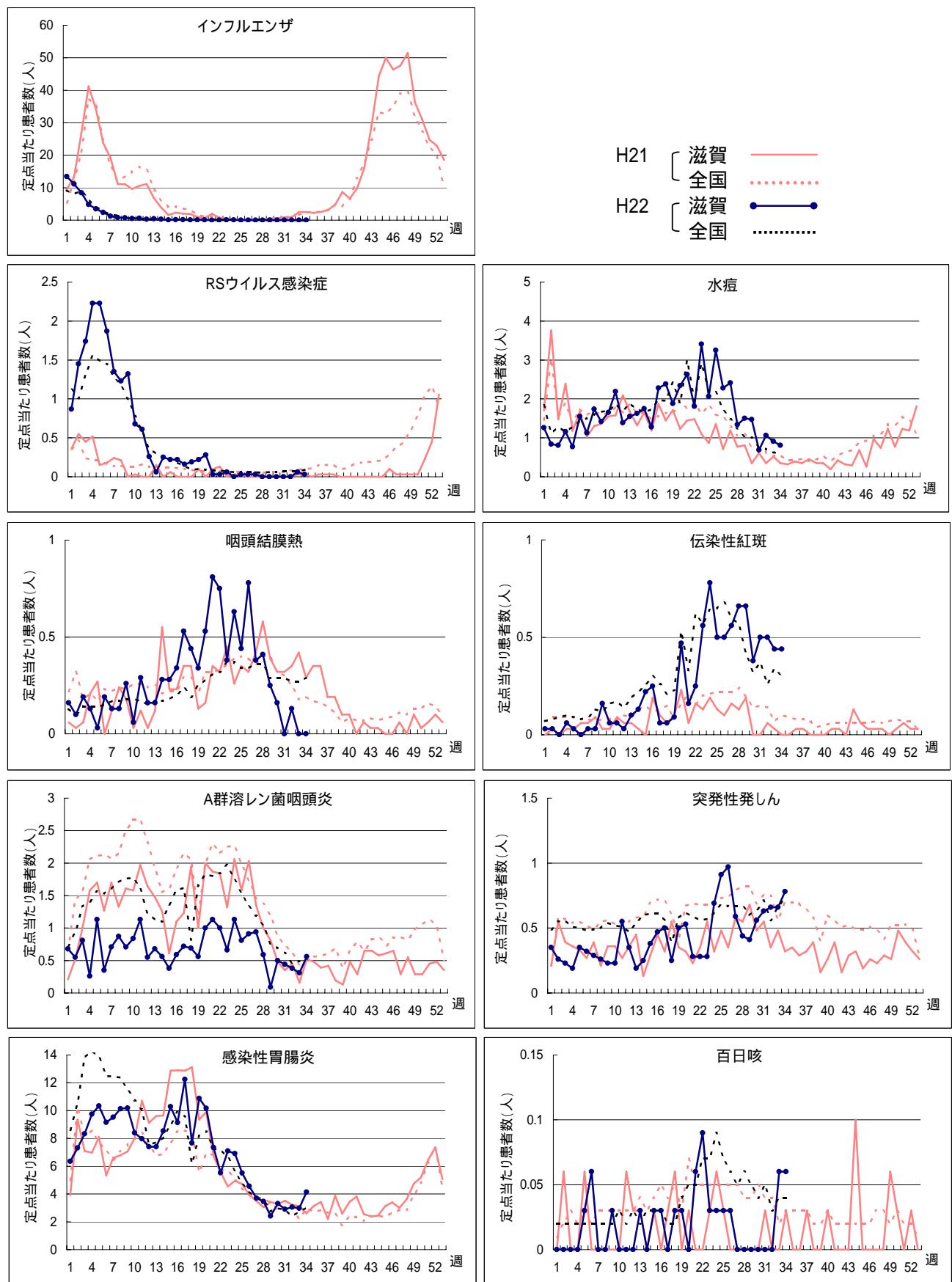
性感染症定点および基幹定点における各疾患の月別・性別発生状況は、左記グラフに示すとおりです。大部分の疾患で、男女ともに先月より増加しています。特に、性器クラミジア感染症では男性で、性器ヘルペスウイルス感染症では女性で急増しています。

また、各疾患の年齢別発生状況は下記グラフのとおりで、性器クラミジア感染症では、15～19歳からの報告が多くなっています。また、性器クラミジア感染症および尖圭コンジローマでは15～24歳からの報告が全体の約50%を占めています。

疾患別・年齢別発生状況(H22.8)



疾病別定点当たり患者数(平成22年第1～34週、H22.1.4～H22.8.29)



戻る

疾病別定点当たり患者数(平成22年第1～34週、H22.1.4～H22.8.29)

